

広島経済大学陸上競技部

●〒731-0192 広島県広島市安佐南区祇園 5-37-1

●Twitter: @TandF\_hue

第69回2015



広経大陸上スポーツ

# 中四国インカレ



全カレ決める!

強い! 経大!

白熱の3日間!



藤原  
優勝&大会新

石本  
優勝&2位

浅野  
全日本個人標準突破

男子マイル  
全カレ標準突破!

前半期の勝負どころ、中四国インカレが岡山（シティライトスタジアム）で行われた。西日本、全日本インカレへと繋がる大事な大会でもあった。結果は男子総合2位（トラック2位フィールド5位）女子総合10位（トラック8位フィールド12位）だった。いくつか取りこぼしもあったが、新戦力も続々と登場し、勢いを感じられた。また、チームも一丸となれた大会となっただろう。

## 1日目

●大会チーム最初の競技は、男子10種競技:100mから始まった。沖(3年)の膝が心配されたが、3人とも無事に1種目を終えた。2日に渡る長い戦いが始まった。●男子400mでは岡本(2年)が決勝で49"53をマークし6位入賞を果たした。西山(3年)も49"21の自己ベストで走るが同組の選手層が厚く、澤田(4年)は動きに精彩を欠き、惜しくも決勝進出とはならなかった。女子400mは小山田(1年)が59秒台で走るがレベルが高く決勝に進むことはできなかった。●フィールドでは女子走り幅跳びが行われていた。竹葉(2年)は2回目に5m34を跳び決勝に残り7位入賞。佛原(1年)は一回目に5m台をマークしたが惜しくもトップ8には残れなかった。●男子4×100mRのメンバーは【甲斐(4年)-久保(3年)-藤原(3年)-浅野(4年)】。今年はまだ一回もうまくバトンが渡ったレースがなく不安だったが、いきなり41秒26の今季チームベストで難なく決勝に。女子も【濱本(4年)-小山田(1年)-茶藤(2年)-竹葉(2年)】のメンバーで49秒09の今季チームベスト。女子も決勝に進んだ。●10種競技は5種目終了時点で和田木(4年)が4種目で自己ベストを更新し、僅差の3位につけた。後半種目は自信があるため巻き返しを狙った。

## 2日目

●2日目の朝方は雨が降っていたが競技が始まるころには止んでおり何の影響もなさそうだった。しかし、10種競技の沖(2年)の膝が1日目で悪化し競技を続けられる状態ではなくなったため、途中棄権となってしまった。悔しいがここはただ耐えるしかなかった。



●さて、この日の注目はなんといっても男子走り幅跳びの藤原(3年)だった。

今シーズンは序盤からベストに迫る記録を出しており、まさに絶好調といえた。藤原は1回目に7m61を跳び、いきなり大会記録を更新した。しかし2回目以降は記録が伸ばせず、1回目の記録で優勝。2位とは20cmの差をつけ圧勝した。中四国には敵はいないという感じだった。甲斐(4年)、開内(4年)は7m台に乗せることができずトップ8には残ることができなかった。

●男子100mでは主将浅野(4年)が意地の走りを見せた。準決勝で10"73のベスト記録を出しており決勝では10"74をマークし4位。浅野は「タイムはこの位を狙っていた。決勝で順位を1つ上げることができて、よかった。」と話した。久保(3年)は10秒台に惜しくも入ることができず準決勝で落選してしまった。



●その頃110mHの石本(2年)は予選14秒85で難なく決勝に駒を進めていた。同種目の前田(1年)は大学初レースとなったが組に救

われ15秒47で決勝に進出した。決勝では石本がベストを更新する14秒62で2位。前田は15秒42で8位と力の差を見せつけられる格好になったが、1年生で決勝に残れたということは大きな自信になっただろう。女子100mHには濱本(4年)、茶藤(2年)が出場していた。濱本は今季調子がよく、かなり期待が持てた。予選は濱本が14秒57で通過。茶藤は15秒28で去年

であれば残れたが、今年はレベルが上がっており惜しくも落選してしまった。濱本は予選タイム4位

だったため、決勝で表彰台&全カレ標準を狙ったが14秒36で4位とあと少しだった。さらに、全日本個人の標準まであと0.06秒だったため、かなり悔やまれるレースとなった。しかし、まだ切れる大会があるので気持ちを切り替えてやってほしい。

●マイル予選は男子【林(1年)-岡本(2年)-谷口(3年)-澤田(4年)】のオーダーで3分17秒78、予選を通過した。女子は【讃岐(1年)-青木(2年)-中野(2年)-小山田(1年)】のオーダーで4分0秒79の今季チームベスト。



明日の決勝に駒を進めた。

●4×100mR決勝は男女とも昨日の予選とメンバー変更なしで挑んだ。女子四継は48"79で4位入賞。

そして男子四継は41"29で5位入賞。全カレ標準を切ることができなかったが、アベック入賞となった。

●男子十種では和田木(4年)と陶山(1年)が前日に引き続き出場した。和田木は6480点の自己新をマークし3位入賞。この記録は広経大新記録となった。この記録更新について和田木は「記録更新は決して一人



ではできなかった。みんなの応援があったからこそこの経大記録だと思う。」と語っており、チームの大切さを改めて実感させられた。また、陶山も5917点で5位と大健闘。1年生ながら上級生に引けを取らずパワフルに競技をこなしていた。

### 3日目

●前日に引き続き、浅野(4年)が堂々たる走りを見せた。

男子

200m 決

勝で

21"40を

マーク

し3位に

見事入

賞。「優

勝を狙

っていたが手が届かず3位となった。全カレ標準まで0.05秒という悔しいレースとなった」と語り、悔しさを滲ませていた。だが、日本学生個人の標準記録を突破していた。全カレ標準を切る機会はまだまだある。

下瀬(4年)も自己ベストを更新した。

女子は讃岐(1年)、中野(2年)、竹葉(2年)が出場したが決勝には誰も上がれなかった。しかし、出場したのは1.2年生だけなので今後が楽しみだ。

●800mでは経大から唯一青山(4年)が決勝に進出。優勝を狙った決勝ではラスト勝負に敗れ1分53秒84で3位だった。

●400mHは谷口(3年)が9番手で惜しくも予選落ち、



女子は小山田(1年)が決勝に進出したのだが、怪我が悪化し思うように走れなかった。青木(2年)

は予選で足が合わず止まる形になってしまった。一瞬ヒヤリとしたが足には問題なく、今後いかにインターバル間を調整できるかが鍵となるだろう。

●フィールドは石本(2年)が三段跳で優勝。石本は今年、ハードル種目に力を入れていたため練習を全くしていなかったが前日のハードルの勢いそのまま、優勝

をさらった。走り高飛びは渡辺(4年)がベストタイの95を跳びチームではトップ。しかし9位に終わった。投擲種目は、円盤に小島(2年)、甲斐(1年)とやり投げに高田(2年)がそれぞれ出場したが、どれもトップ8入りはなかった。しかし、こちらも選手層が若いので今後楽しみである。

●女子マイルは小山田(1年)の怪我のため竹葉(2年)に変更し、決勝は4位だった。男子マイルもメンバーを変更し、3走に西山(3年)、アンカーに浅野(4年)を置いた。レースは環太平洋と一騎打ちの勝負となったが敗れ3分12秒09で2位だった。しかし、この記録で全カレの標準を突破し悲願の全カレ出場の切符を手にした。



この度の中四国インカレは

広経大が出せる全ての力を余すところなく発揮できた試合だと思っています。私が入学して以来最多の全カレ出場者そして得点、日々の努力がこうして結果に結びついたんだということを強く感じています。またこれに満足することなくこれからも記録を伸ばしていけるようチーム一丸となって

練習や試合に取り組み、さらなる高みへ飛躍していきましょう。 4年 澤田翔太

新しく主将を務めさせて頂きます西山です。今回の中四国インカレでは多大なる応援や御支援、ありがとうございました。おかげさまで男子は総合2位に入ることができました。

私自身これまで陸上続けてきて高校時代にも主将というものを経験したことがあります。過去の経験を活かし色々チャレンジしていきたいと思います。この1年間で自分らしい色をチームに浸透させ、チームをインカレ総合優勝に導きたいと思います。1年間ご支援、ご声援よろしくお願い致します。

3年 西山浩也